



## 地震の起こり方はみな同じなの

### 断層ができるときに、地震が起こる

地球の内部は、かたい岩石でできています。この岩石を岩ばんといいます。地震がよく起こる所では、岩ばんの中でおしつける力、引っ張る力、横にずれようとする力などが、はたらいています。

このような力が、長い間に、少しずつたまっていくと、ゆがみが大きくなり、一気に岩ばんに、割れ目が走ったりして、岩ばんがずれて、断層ができます。このように、断層ができるときに、地震が起こります。

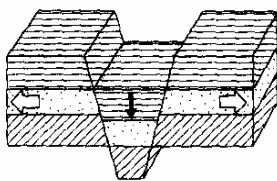
### 断層のでき方のちがいで、地震の起こり方がちがう

岩ばんに、引っ張りあう力がはたらき、たえられなくなって、一部が下に落ちるときに地震が起こります。これが原因で起こる地震を、正断層型の地震といいます。

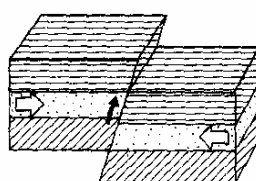
岩ばんに、おしあう力がはたらき、たえられなくなって、割れ目ができるときには、一方がはね上がるために、地震が起こります。これが原因で起こる地震を、逆断層型の地震といいます。

岩ばんに、水平方向に力がはたらき、たえられなくなったときには、横向きにずれるために、地震が起こります。これを横ずれ断層型の地震、といいます。（監修・国司 真）

正断層型の地震



逆断層型の地震



横ずれ断層型の地震

